

令和6年度進行管理・評価シート
加賀市 歴史的風致維持向上計画（令和3年3月23日認定）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)		
1 歴史的風致の維持及び向上に向けた連携並びに推進体制	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)		
1 加賀市景観計画との連携	3
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1 錦城山公園修景整備	4
2 江沼神社庭園整備	6
3 歴史的都市構造保存整備	7
4 空地活用整備	8
5 松島橋の架け替え	9
6 町名の普及啓発及び由緒書等整備	10
7 町並み景観形成	11
8 歴史的風致形成建造物修理	12
9 町屋再生	13
10 祭礼の継承	14
11 伝統芸能の継承	15
12 茶の湯文化普及啓発	16
13 和菓子文化普及啓発	17
14 伝統工芸普及啓発	18
15 歴史的風致活動の推進	19
16 歴史的人物の活用	20
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の保存・活用の現況と今後の方針	21
2 文化財の修理(整備)に関する方針	22
3 文化財の保存・活用を行うための施設に関する方針	23
4 文化財の周辺環境の保存に関する方針	24
5 文化財の防災に関する方針	25
6 文化財の保存及び活用の普及・啓発に関する方針	26
7 埋蔵文化財の取扱いに関する方針	27
8 文化財の保存又は活用に関する事項の保存・活用に向けた市の体制と今後の方針	28
9 各種団体の状況及び今後の体制整備の方針	29
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)		
1 歴史まちづくりに関する新聞報道記事	30
⑥その他(効果等)(様式1-6)		
1 歴史まちづくりの推進	32

□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)	33
--------------------------------	-------	----

評価軸①-1
組織体制

項目	評価対象年度	令和6年度
歴史的風致維持向上計画の実施体制		現在の状況 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
計画に記載している内容	本計画の実施体制については、建設部都市計画課と観光推進部文化振興課を事務局とした庁内推進組織を設置するとともに、歴史まちづくり法第11条の規定に基づく「加賀市歴史的風致維持向上協議会」において、計画の推進や変更等の連絡・調整・協議等を行い、事業の推進を図る。また、必要に応じて、加賀市の都市計画や景観、文化財保護等に関する審議会、並びに文化財や歴史的建造物の所有者等と連絡調整を行う。	

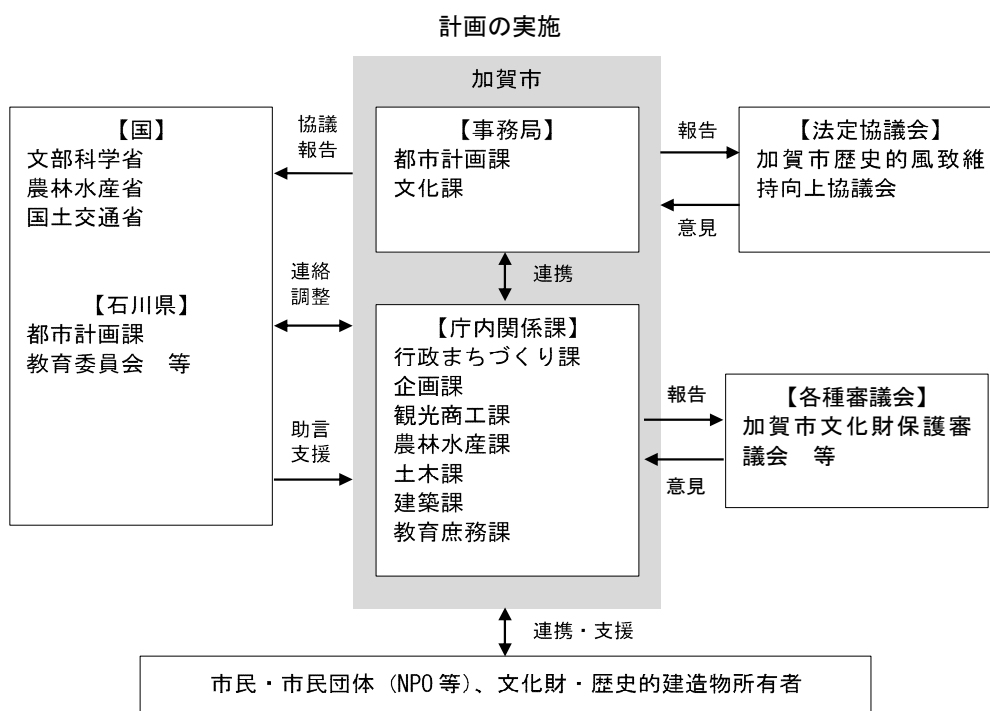
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

歴史的風致維持向上計画幹事会を令和7年2月18日に開催し、事業の進捗状況、課題解消に向けての確認を行った。大聖寺まちづくり推進協議会のまちづくり部会である「大聖寺わがまちビジョン推進委員会」において、事業の進捗状況と方向性について、令和6年5月27日、9月30日に意見交換を行った。第4回歴史的風致維持向上協議会を令和7年2月28日に開催し、令和6年度の進捗評価シートについての説明を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	各種事業を円滑に推進していくため、各種補助事業の積極的な活用、周辺住民の合意形成を図っていく必要がある。 歴史まちづくりに関する情報を発信し、市民の意識向上を図る必要がある。

状況を示す写真や資料等

図 加賀市歴史的風致維持向上計画の推進体制



状況を示す写真や資料等

写真 歴史的風致維持向上計画幹事会の様子(令和7年2月18日)



写真 大聖寺地区地元まちづくり団体との意見交換の様子(令和6年5月27日ほか全2回)



写真 歴史的風致維持向上協議会の様子(令和7年2月28日)



評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

	評価対象年度	令和6年度
項目	現在の状況	
加賀市景観計画との連携	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容
 本市では、旧加賀市、旧山中町それぞれ独自の景観条例を定めていたが、平成20年(2008)の合併を契機に「加賀市ふるさと景観条例」を制定し、景観の魅力向上に努めてきた。また、平成16年(2004)に制定された景観に関する総合的な法律である景観法に基づき、景観行政団体になっている。このようななか、平成23年(2011)に景観法に基づいた「加賀市景観計画」を策定し、市民・事業者・市の協働による総合的な景観形成を進めている。
 加賀市景観計画では、加賀市全域を「景観計画区域」とし、景観まちづくりの基本目標や基本方針及び市のコミュニティの単位に合わせた20ゾーン別の景観形成の方針のもと、届出勧告制度による大規模な建築物の行為制限、景観重要建造物及び景観重要樹木の指定方針等を定めている。
 加賀市の歴史的風致は市内各所に広がっていることから、事業展開に併せて景観計画と連携する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

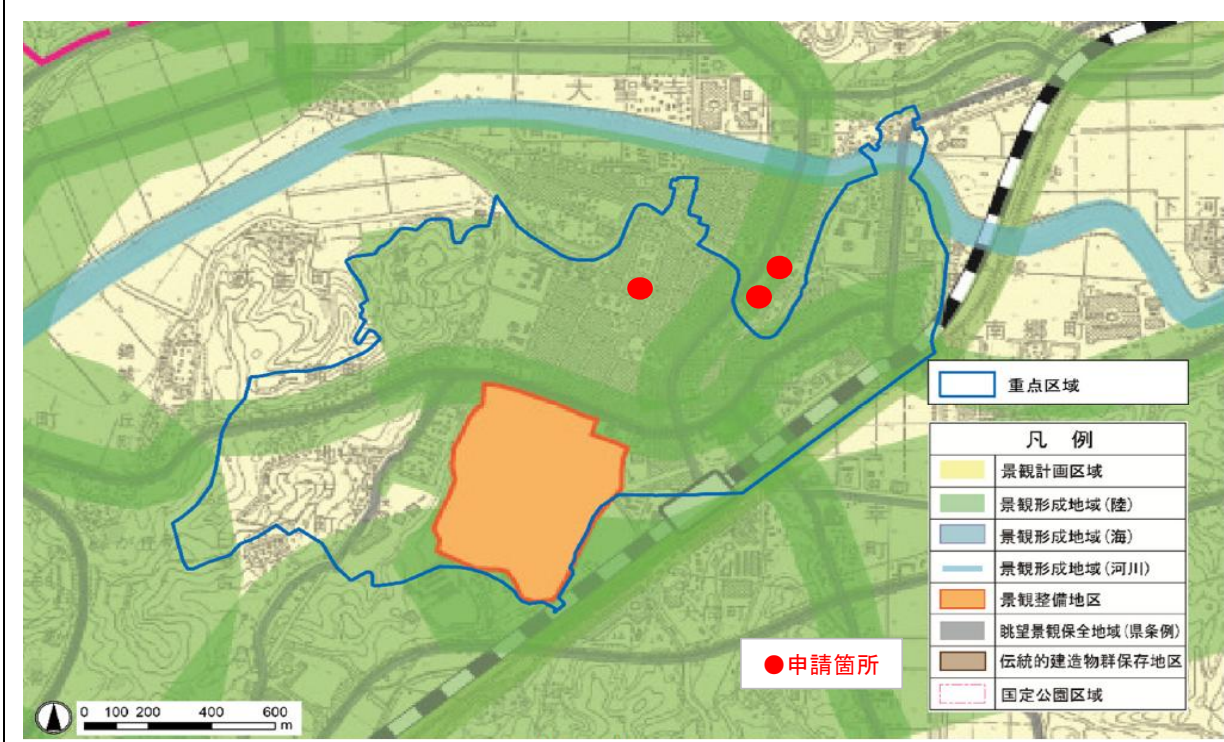
市全体を対象とした景観形成として「景観計画区域」、主要幹線道路、鉄道、河川、駅等の景観形成上重要な地域として「景観形成地域」、また、市民主体による景観形成として「景観整備地区」(地域住民の意識の高まりに応じて市民自らが定めた区域等)があり、2段階で規制誘導を進めている。
 重点地区である大聖寺地区については、山ノ下寺院群を含む「大聖寺地区景観整備地区」において、景観計画に基づく景観形成を推進している。統一感のあるまちなか景観を創造するために、各地区の基準に基づき指導審査し、適合する建築物、工作物について助成を行っている。

景観計画区域内における行為の届出
 令和6年度届出件数 : 大聖寺地区 3件(うち景観整備地区内0件)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	景観計画に基づき、歴史的建造物からなる町並みとの調和を図ることが必要である。

状況を示す写真や資料等

図 重点区域の景観計画区域



評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和5年度
現在の状況		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
錦城山公園修景整備			

事業期間 令和元年(2019)度～令和12年(2030)度

支援事業名 市単独事業、社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)

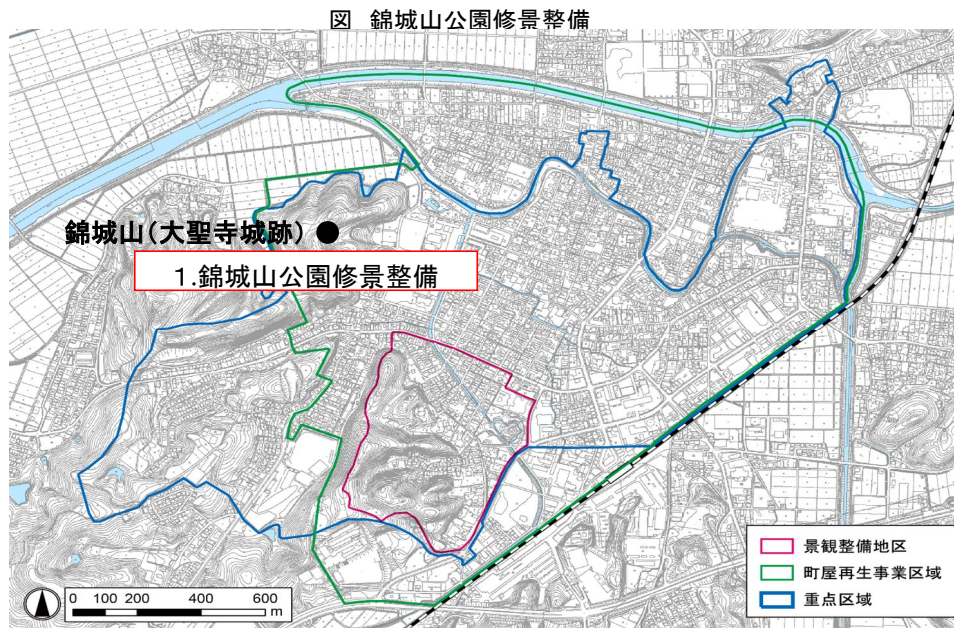
計画に記載している内容 大聖寺城跡は、別名「錦城山」と呼ばれ、江戸時代には一般人の立ち入りが禁じられていたことから、当時の遺構が良く残り、織豊時代における近世城郭の成立過程や伝播を知るうえで貴重な城跡である。現在も大聖寺の住民のシンボリック的存在であり、保存会による活動等が行われているが、遺構の保護、顕在化に留意しながら再整備することで、大聖寺城の存在を一層体感できる史跡公園となり、利用者の増加が期待できる。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

市指定史跡大聖寺城跡について、国史跡指定に関する協議を文化庁と3回行った。令和7年1月10日には、文化庁が選択する「指定相当の埋蔵文化財リスト」に大聖寺城跡が掲載され、遺跡の重要性が周知された。指定範囲外である公園入口部の修景について、地元と意見交換を行い、詳細な整備方針を決定し、整備に着手した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	計画の実施にあたっては、大聖寺城跡の国指定の手続きと調整を図り、整備を進めていく。史跡としての価値を損なうことなく園路や安全施設の修繕、休憩施設の更新、説明板や視点場等の整備を進める。

状況を示す写真や資料等



- 第三期リスト掲載遺跡一覧
1. 大聖寺城跡 (石川県加賀市)
 2. 花立山古墳群及び城山古墳群 (福岡県小郡市・朝倉郡筑前町)
 3. 南新造院跡・南新造院瓦窯跡 (島根県松江市)

令和7年1月10日付「指定相当の埋蔵文化財リスト」掲載遺跡

状況を示す写真や資料等

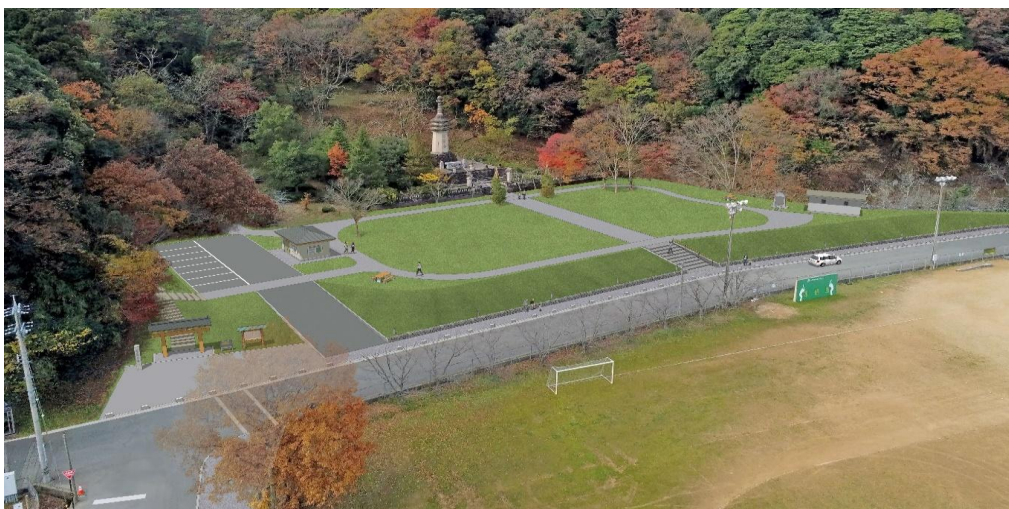
現況写真 錦城山入口部



入口部整備前



入口部完成イメージパース



評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

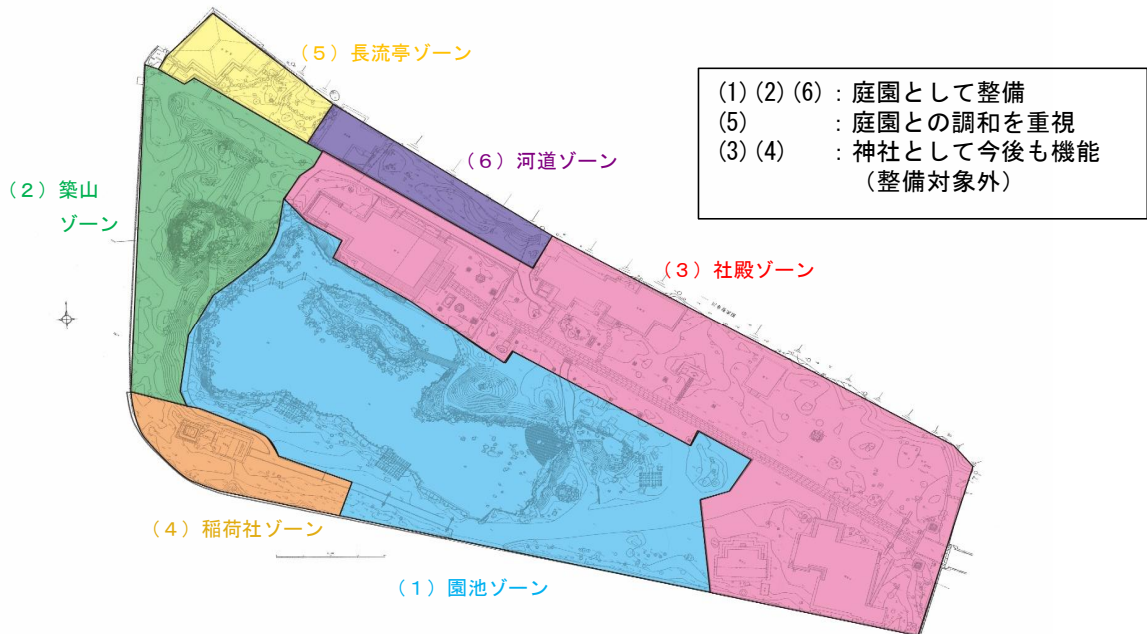
		評価対象年度	令和6年度
項目		現在の状況	
江沼神社庭園整備		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成28年(2016)度～令和12年(2030)度		
支援事業名	市単独事業、社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)		
計画に記載している内容	江沼神社庭園は、外苑的池泉廻遊式庭園としては兼六園以外に県内唯一の大名庭園として価値が高い。現在は神社の所有となっているが、適切に保存・管理することで、貴重な庭園への理解が深まることが期待できる。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
江沼神社庭園の整備活用を計るため、令和3年度に基礎調査、令和4年度に名勝調査を実施。令和5年度より保存活用計画策定のため、4名で構成する整備活用検討委員会を設置して計画を練った。令和6年9月に保存活用計画を策定し地元広報誌に掲載するなどして周知した。令和6年度より整備基本計画と整備工事実施設計に着手し、地権者との交渉、賃借地の境界検討も行っている。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない		江沼神社庭園は貴重な歴史資産であるとともに、神社境内地である。整備を進める前に、歴史的価値の評価から整備範囲を明確に切り分ける必要がある。所有者・地元住民と協議し、名勝庭園としての整備活用を進める。	
状況を示す写真や資料等			



江沼神社庭園の池管理 (7/19撮影)



京都芸術大尼崎博正・町田香視察 (8/9)



江沼神社庭園ゾーニング図

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和6年度 現在の状況
歴史的都市構造保存整備		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 令和3年(2021)度～令和12年(2030)度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)

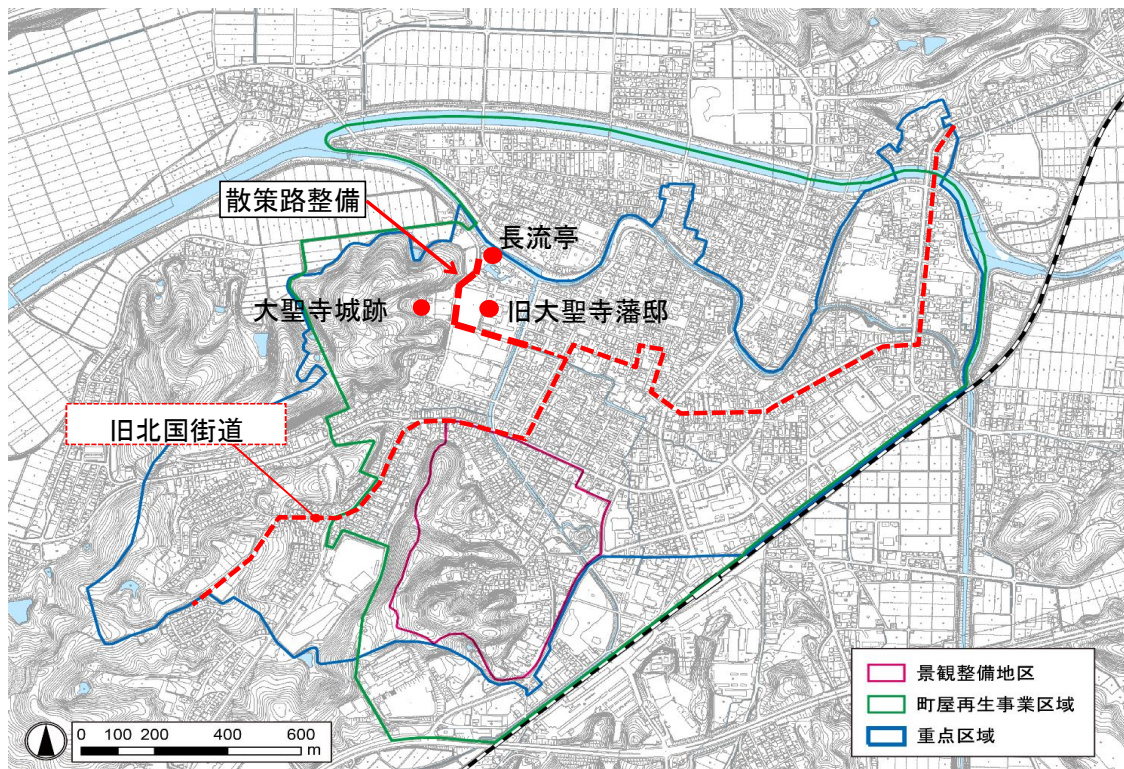
計画に記載している内容 地域内には、かつての城下町の町割が現代まで継承されており、地域住民等により旧北国街道や一里塚、関所跡の再建、旧大聖寺川や熊坂川の活用が図られている。これら城下町の都市構造を歴史性に留意しながら保存・再整備することで、今後も一層の活用と継承が図られ、城下町大聖寺の賑わいの創出を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

城下町の都市構造を歴史性に留意し、文化財を核とした周辺環境と調和のとれた道路舗装の美装化や、案内サインの設置を予定している。令和6年度は、旧大聖寺藩邸周辺の散策路整備について地元と意見交換を行い、道路舗装の美装化の仕上がりについて具体的な整備方針を決めた。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	旧大聖寺藩邸周辺の散策路整備とは別に、北国街道の道路舗装の美装化については、他事業と合わせた検討が必要であり、整備範囲や内容について今後も地元協議の上、方針を定める必要がある。また、案内看板については、既に民間団体にて設置済みの看板との統一性を検討していく必要がある。 状況を示す写真や資料等

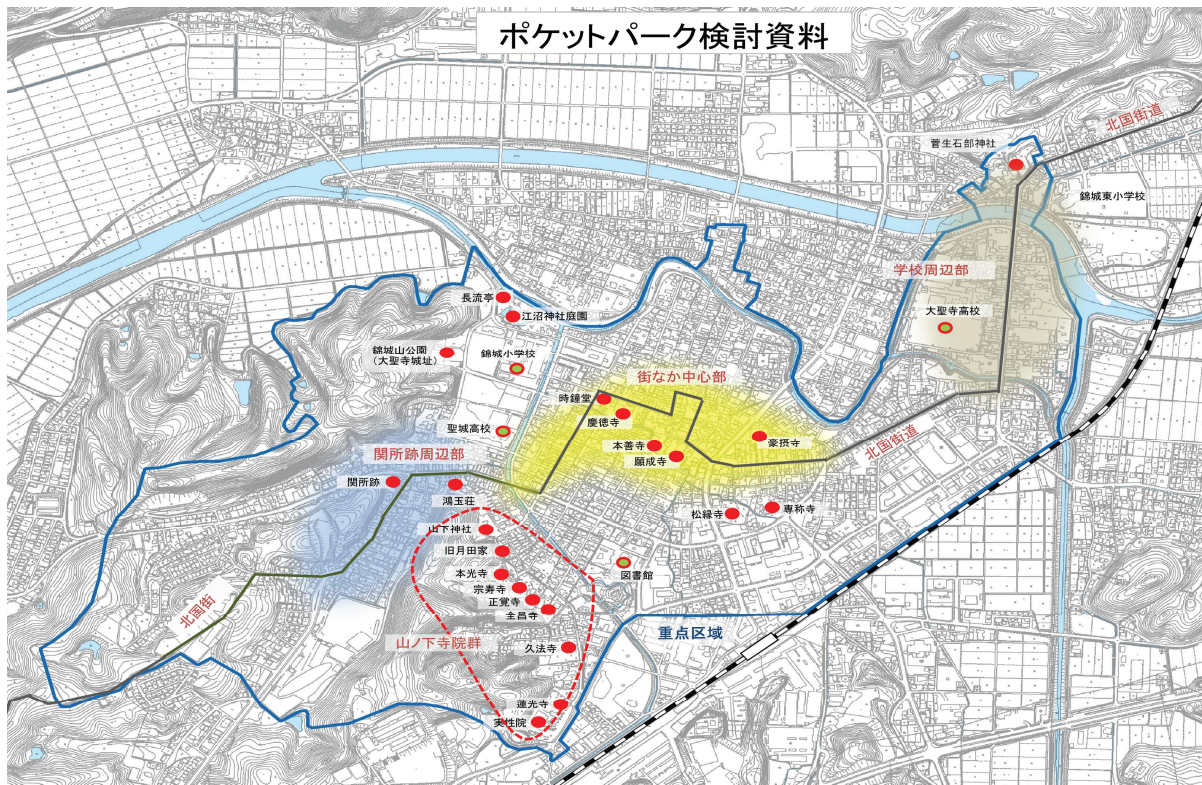
図 重点区域内の旧北国街道沿道



評価軸③-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度
			現在の状況
空地活用整備			<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
事業期間	令和3年(2021)度～令和12年(2030)度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)		
計画に記載している内容	地域内には、かつての城下町の町割が現代まで継承されており、地域内にポケットパークや情報板を整備し、市民や来訪者が気軽に立ち寄ることで、城下町の歴史文化への理解が深まり、賑わいの創出に寄与する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
駐車場やポケットパークの整備、城下町の町割や歴史文化に関する説明板や四阿、ベンチ等の整備を予定している。令和6年度は、ポケットパークの整備に向けて、空地や空家の基礎資料をベースに、地元との意見交換を行い、基本方針を定めた。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	地元住民等との協議を重ねながら、持続可能な運営ができるような施設整備が必要である。		
状況を示す写真や資料等			



評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
松島橋の架け替え			<input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
事業期間	平成28年(2016)度～令和6年(2024)度		
支援事業名	社会資本総合整備事業(防災安全)、道路メンテナンス事業 交付金対象期間:平成29年(2017)度～令和5年(2023)度		
計画に記載している内容	松島橋は国指定の重要文化財「江沼神社長流亭」を望む旧大聖寺川に架かる橋で、景観上重要な場所に位置する。そのため、架け替えにあたり歴史性や景観に十分配慮して整備し、周辺との融和を図っていく。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
新設橋は、令和4年3月26日から供用開始。旧橋撤去工事は令和5年度完了予定であったが、河川管理者との協議により非出水期(11月～5月)に施工するよう指示があったためその結果、事業が令和6年度まで延伸することとなった。右岸側既設橋(P3・P4橋脚、A2橋台)の撤去は令和6年5月末に完了し、また地元より要望があった松島橋に接する河川際への転落防止柵は令和6年12月に設置完了し、本事業が完了した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない		令和6年度に右岸側既設橋(P3・P4橋脚、A2橋台)の撤去完了及び転落防止柵の設置をもって、本事業は完成した。	

状況を示す写真や資料等

図 松島橋の架け替え

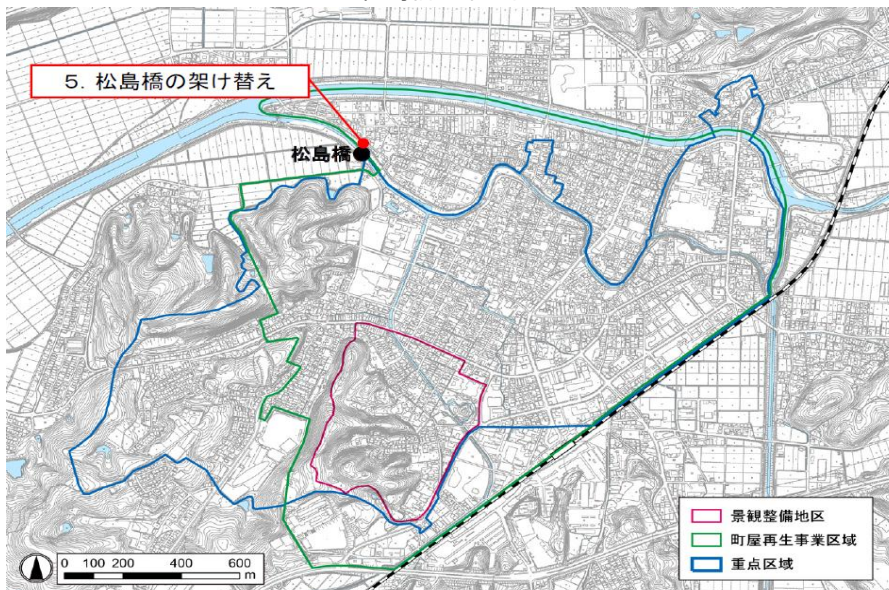


写真 既設橋撤去完了及び転落防止柵設置完了後(令和7年2月)



評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和6年度
項目	現在の状況	
町名の普及啓発及び由緒書等整備	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和3年(2021)度～令和12年(2030)度

支援事業名 市単独事業、社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)

計画に記載している内容 江戸時代に70余りあった町名は、明治以降もほとんど統合されずに残っており、町名の普及啓発活動を支援することで、城下町の歴史への理解が深まり、大聖寺城下町の賑わいに寄与する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

由緒ある建造物等の歴史文化をPRするために、町名の由来や歴史をめぐるイベント等の普及啓発活動や、町名説明板を設置することを予定している。令和6年度は、広報かがで大聖寺の町名の由来を隔月(4月号、6月号、8月号、10月号、12月号、2月号)で掲載した。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

広報などを通じて広く町名に関する情報提供を行い住民のまちに対する意識や関心を高めるとともに、案内板等の整備により観光資源としての活用をはかる。

状況を示す写真や資料等

写真 現在の城下町の街なみ



資料「広報かが 令和6年4月号」

資料「広報かが 令和6年12月号」

城下町大聖寺 ～わがまちの由来～

永町と町の発展

永町は、江戸時代には菅生町の端から敷地大橋にかけて連なる長い町人町で、長町とも書かれました。町名の由来は長い町並みによると言われています。

また当時は大聖寺藩の米蔵がおかれていました。洪水が発生した際は、藩の命で吉崎村から船を一隻派遣し、救助にあたらせたと伝わっています。この他江戸時代には3度の火災に見舞われ、約65戸の家屋が焼失したという記録もあります。

度重なる水害・火災に見舞われながらも、行政や町民の力で町は発展してきました。明治時代には町民の出資により積立会社が、大正時代には県立大聖寺中学校(現大聖寺高校)の校舎が設立されました。

図文化課 ☎0761-72-7888

城下町大聖寺 ～わがまちの由来～

鷹匠町とまちの由来

鷹匠町は、江戸時代から続く由緒ある町名で、当時は城下町の北東部に位置する武家屋敷が広がる地域でした。その名の通り、鷹匠たちが住んでいたことからこの名がついたと言われてはいますが、実際には士分(武士の身分)の人々が住んでいたと伝えられています。

この地域は、大規模な火災や水害などの災害にも見舞われ、大聖寺藩の歴史には、洪水の際に八間道(はちけんみち)から鷹匠町まで船で帰ったという記録も残されています。

明治時代に入ると、士族たちは依然としてこの地に住み、塾を開く者もいました。さらに大正から昭和初期にかけては、かつての武家屋敷を活用して織物業を営む者も現れ、地域の経済や文化に新たな風を吹き込みました。

図文化課 ☎0761-72-7888

評価軸③-7
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和6年度 現在の状況
町並み景観形成		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成11年(1999)～令和12年(2030)度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 大聖寺藩成立前後に計画的に配置された山ノ下寺院群の歴史的建造物や周辺の建物の修理・保存を支援することにより、本地域の歴史的景観が継承され、大聖寺城下町の賑わいに寄与する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

各地区の基準に基づき指導審査し、適合する建築物、工作物について助成を行っている。重点地区である大聖寺地区については、山ノ下寺院群を含む「大聖寺景観整備地区」において、景観計画に基づく景観形成を推進している。

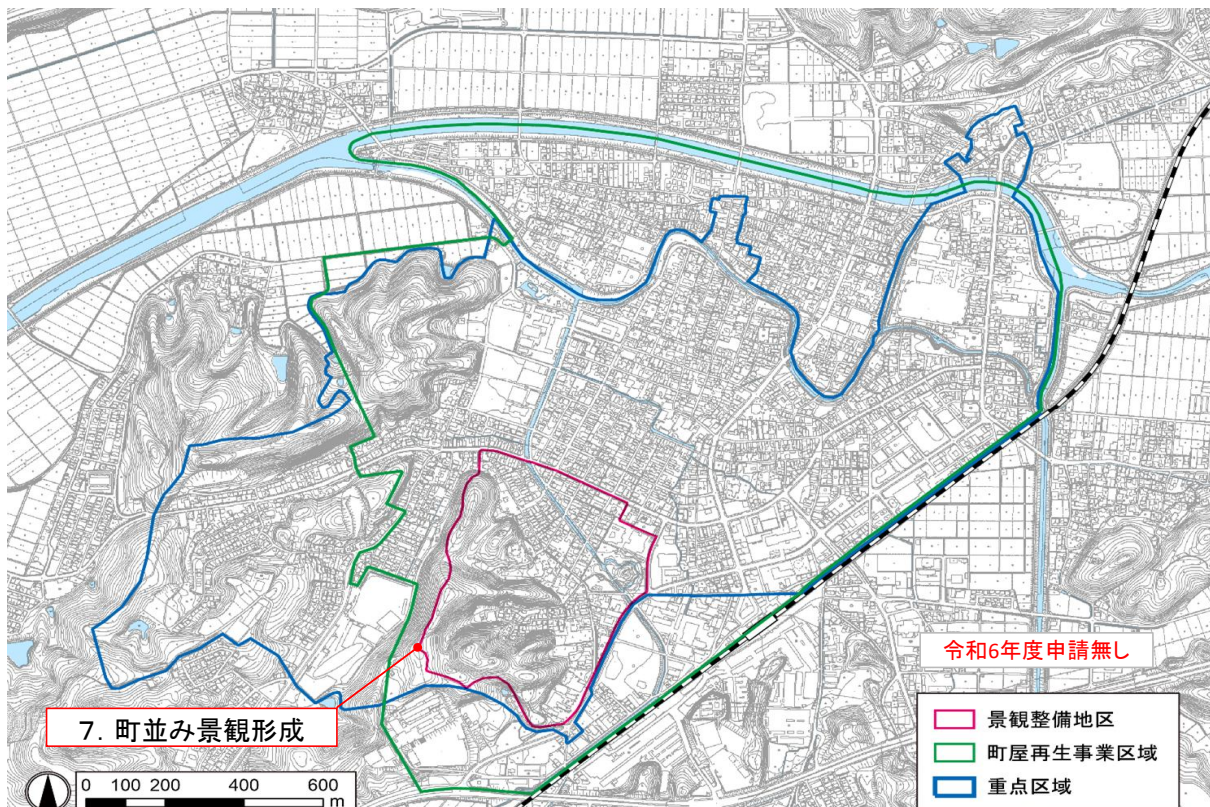
大聖寺地区景観整備事業補助金交付申請

令和6年度申請件数 : 0件

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	歴史的建築物以外の建築物についても、景観計画等により歴史的建築物からなる町並みと調和した修理・修景を行っていく。

状況を示す写真や資料等

図 大聖寺景観整備地区



7. 町並み景観形成

評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和6年度
項目	現在の状況	

歴史的風致形成建造物修理

- 実施済
- 実施中
- 未着手

事業期間 令和3年(2021)度～令和12年(2030)度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)

計画に記載している内容 地域内には、大聖寺藩成立前後に計画的に配置された山ノ下寺院群をはじめ、数々の歴史ある寺社が立地しており、また、武家屋敷や町屋等の歴史的建造物が残っているが、保存・維持が困難になっているものや、十分に活用されていないものがある。これらの歴史的建造物の修理・保存を支援することにより、本地域の歴史的景観が継承される。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

歴史的建造物の増築、改築、移転又は除却に係る届出及び勧告等を活用し、適正な維持・管理を図る。令和6年度は相談があり、支援体制について検討し、制度の策定について関係部局と協議を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応

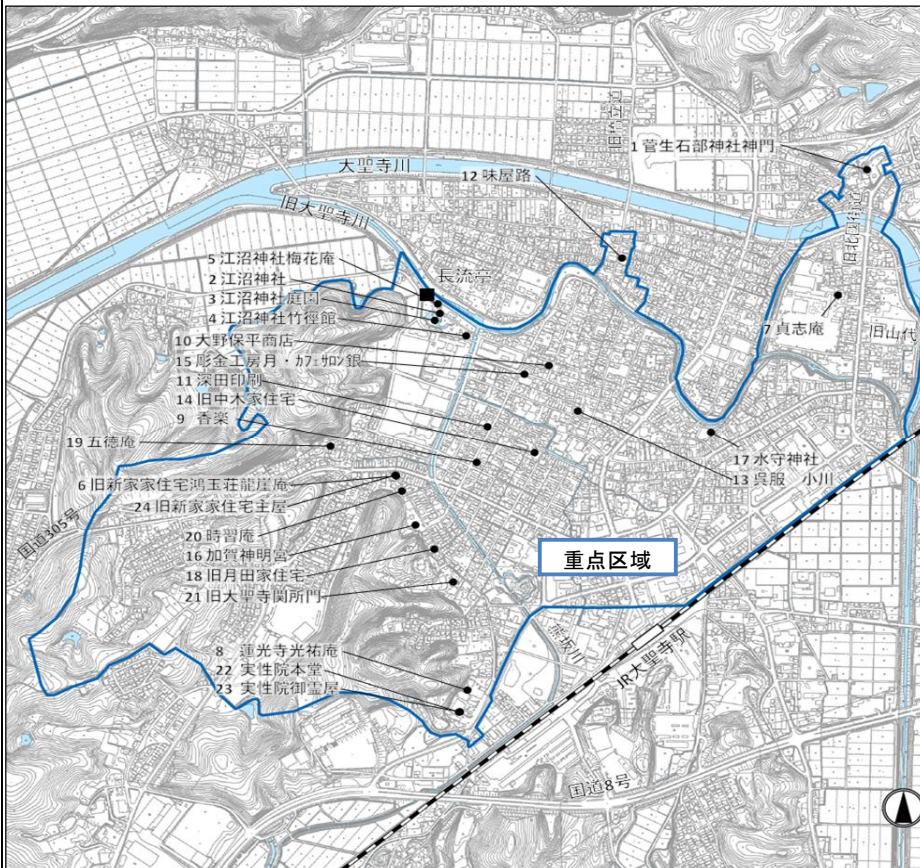
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

歴史的建造物の保存・維持を推進するため、経年劣化とあわせ、災害等での破損についても適用できるよう補助金交付の支援体制を整える。今年度、相談が1件あり、建物改修の補助要綱の検討し、令和7年度より実施予定。今後も、被災した建造物もあることから、実態の把握とともに制度の周知をはかり、財政的支援の手法を検討していく。

状況を示す写真や資料等

図 歴史的風致形成建造物指定箇所(24件)



指定番号	名称	所在
1	菅生石部神社神門	大聖寺敷地ル乙81番地
2	江沼神社	大聖寺八間道55番地
3	江沼神社庭園	大聖寺八間道55番地
4	江沼神社竹徑館	大聖寺八間道55番地
5	江沼神社梅花庵	大聖寺八間道55番地
6	旧新家住宅毛鴻玉荘・龍崖庵	大聖寺開町2番地1
7	貞志庵	大聖寺永町33番1
8	蓮光寺光祐庵	大聖寺下屋敷町28番甲1
9	香楽	大聖寺中町34番地
10	大野保平商店	大聖寺片原町7番地
11	深田印刷	大聖寺中町73番地
12	味家路	大聖寺新町29番地1
13	呉服 小川	大聖寺本町36番
14	旧中木家住宅	大聖寺魚町36番
15	彫金工房・カフェサロン銀	大聖寺本町10番1
16	加賀神明宮	大聖寺神明町16番甲
17	水守神社	大聖寺法華坊町50番5
18	旧月田家住宅	大聖寺神明町10番地
19	五徳庵	大聖寺鐘町52番1
20	時習庵	大聖寺神明町20番地1
21	旧大聖寺開所門	大聖寺神明町3番地
22	実性院本堂	大聖寺下屋敷町28番地1
23	実性院御霊屋	大聖寺下屋敷町28番地1
24	旧新家住宅主屋	大聖寺開町2番1

評価軸③-9
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和6年度
項目		現在の状況	
町屋再生		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成18年(2006)度～令和12年(2030)度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	地域内には、武家屋敷や町屋等の歴史的建造物が残っているが、保存・維持が困難になっているものや、十分に活用されていないものがある。これらの歴史的建造物の修理・保存を支援することにより、本地域の歴史的景観が継承される。		

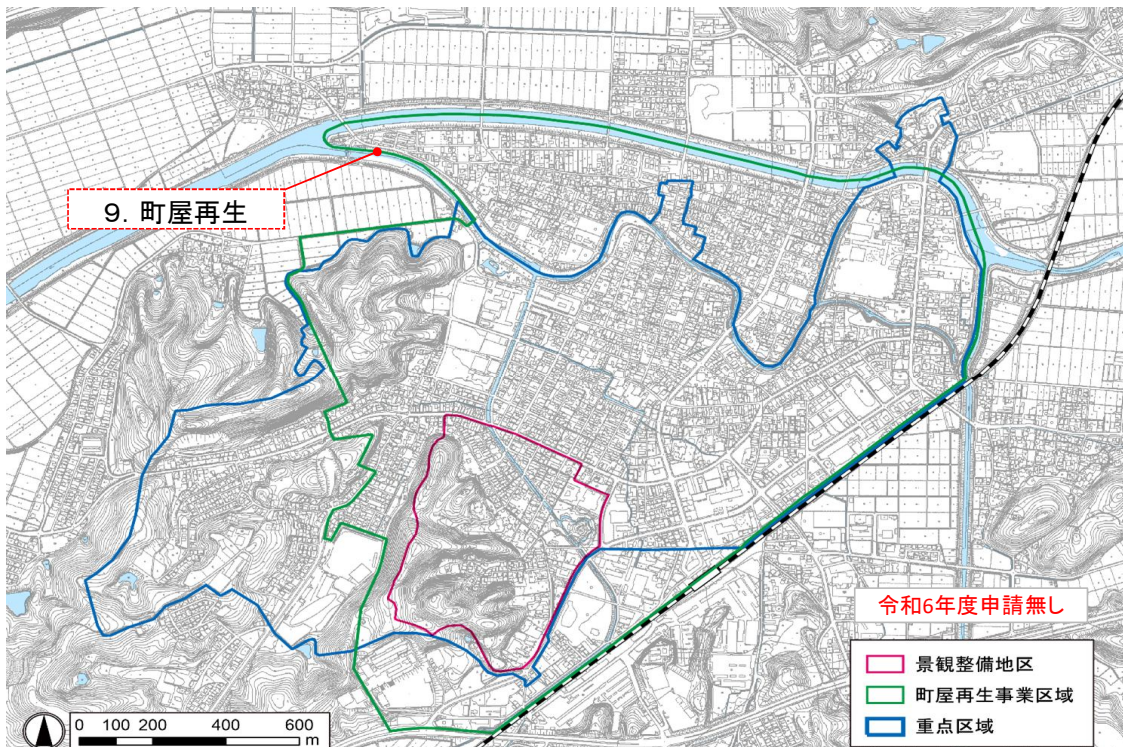
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

「町屋再生事業」は、大聖寺地区内に残る町屋などの歴史的建物を対象として、外観の修繕や構造の補強、賑わい創出に貢献する施設への改修する場合の費用を補助する制度であり、歴史的景観の保全やまちなみ賑わい創出を支援している。当該年度については、申請はなかったが相談が数件あり、令和7年度に実施を検討している。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	所有者の高齢化等に伴い、制度を活用できる事業者が減ってきている。歴史的景観を維持するため、引き続き町屋の保存・活用について啓発を行っていく。また、今年度は修理の補助要望はなかったが、被災した建造物もあることから、実態の把握とともに補助制度の周知をはかり、制度活用に結びつけていく。

状況を示す写真や資料等

図 町屋再生事業区域



評価軸③-10 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和6年度 現在の状況
祭礼の継承		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 令和3年(2021)度～令和12年(2030)度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 各寺社ではそれぞれ祭礼・伝統行事が行われ、本地域の年中行事として根付き、獅子舞等も行われている。これらの貴重な伝統行事等を支援することにより、伝統文化への理解が深まって次世代への継承につながる。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

民間団体の加賀市獅子舞を応援する会(令和5年1月発足)が精力的に活動し、SNSを活用した発信や動画公開等を行っている。

大型イベントにあわせ、市内獅子舞が参加した。

①北陸新幹線加賀温泉駅開業記念まつり「加賀未来市。」(令和6年3月16日・17日開催、参加8町内、鑑賞者3,000人)

②加賀温泉駅にぎわい交流施設オープニングイベント(令和6年12月1日開催、参加2町内、鑑賞者500人)

令和7年3月16日には、北陸新幹線加賀温泉駅開業1周年イベントとして、第3回加賀市獅子舞春祭りを開催予定。

獅子舞備品等の助成(宝くじ事業)を要望したが、今年度は不採択となった。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

祭礼道具の購入助成など資金面で団体の活動を支援するとともに、祭礼以外の活動の場を提供し、地域住民の興味や関心、地域の宝としての祭礼行事に対する意識を高め、担い手育成につなげる。また、イベントなどで獅子舞を披露することで、観光資源としての活用を図る。

状況を示す写真や資料等

資料 北陸新幹線加賀温泉駅開業イベント時の写真



資料 にぎわい交流施設イベント時の写真



評価軸③-11

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和6年度
項目		現在の状況	
伝統芸能の継承		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和3年(2021)度～令和12年(2030)度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 お松囃子は能楽の正月謡初め行事で、かつては全国の各藩で行われていたが、大聖寺では現在まで継続して行われている。この貴重な伝統芸能の活動を支援することにより、伝統文化への理解が深まって次世代への継承につながる。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・加賀市無形文化財であるお松囃子の継承活動に対する補助を行った。(補助額360千円)
 ・お松囃保持団体である錦城能楽会による事業を実施した。
 ①お松囃子(令和7年1月4日(土) 60名参加。②春季能楽大会:令和6年5月19日開催、50名参加、③秋季能楽大会:令和6年10月13日、53名、)
 ・お松囃子の保持団体である錦城能楽会は、かつて100人以上の会員がいたが現在は40人程度まで会員数が減少していることから、後継者不足や、市民の誇りとしての能の振興などについて、加賀市能のまち推進協議会を開催し、課題解決に向けた検討を行った。(令和6年8月9日、令和7年1月31日)
 ・能楽の普及啓発、伝統芸能を担う人材育成のため、各種事業を実施した。
 ①謡と仕舞教室の開講(令和6年8月～9月、練習5回、発表会1回)。うち1名が錦城能楽会に加入し、お松囃子で謡を担った。②言師と芸人による対談、ワークショップを含んだ狂言公演を開催した。(令和6年11月2日(土)於:山中座、145名参加)若い世代への狂言への関心を深めた。③児童向けの県民移動能を金沢能楽会と共催し、河南小学校で実施した。河南小学校・山中小学校の児童が楽器や狂言、能面をかける体験をした他、能と狂言の公演を鑑賞した。(令和6年11月5日(月)、168名参加)。④錦城能楽会会員が講師となり、市内小学校を巡回する能楽ワークショップを実施した。(市内6校、延べ471名参加、令和6年11月～12月開催)。実際に能楽を体験することで能楽への関心を深める機会となった。⑤市ホームページに能楽の専用ページを作成し、イベント情報や能楽コラムを掲載した(全15回のうち13回掲載済)。

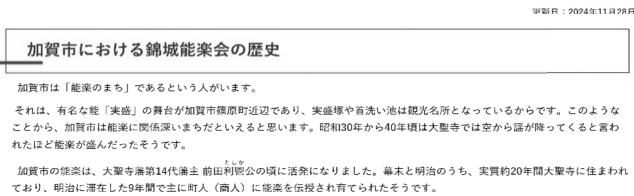
進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない
 能楽に興味を持つ市民の掘り起こしから、段階を踏んで、お松囃子の後継者等能楽を担う人材育成につなげていくため、能のまち推進のためのロードマップを作成し、数年単位で戦略的に事業を実施していく。

状況を示す写真や資料等

資料 市ホームページ掲載 能楽コラム

11. 錦城能楽会の歴史と活動



資料 市ホームページ専用ページ QRコード



資料 能楽教室(謡)



資料 狂言公演



写真 県民移動能の様子



評価軸③-12

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和6年度
項目		現在の状況
茶の湯文化普及啓発		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 令和3年(2021)度～令和12年(2030)度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 初代藩主の前田利治が小堀遠州から茶道の手ほどきを受けていたこともあり、大聖寺藩では茶の湯が盛んで、現在も茶室が多数残っている。そのため事業により茶道の普及啓発を行うことにより、茶の湯文化を次世代へ継承する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

公共施設にて茶道具や茶の湯文化にまつわる資料の展示を通年で行っている。
 石川県九谷焼美術館で九谷桜花茶会(令和6年4月7日)やはじめてのおちゃかい(6月23日)、夕顔の会(8月18日)、晩秋の会(10月27日)を実施し、延べ244人が参加した。流派を問わず、市民がお茶を親しむ機会となった。
 大聖寺鴻玉荘(市指定有形文化財「旧新家住宅」)では、民間団体が茶会を開催し、歴史的建造物の活用を図るとともに情報発信に繋げた。(9月28～29日、述200人参加)また、この茶会にあわせ、大聖寺藩14代藩主・前田利豊ゆかりの茶道具や書を展示した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
----------------	--------------------------

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

市内施設や歴史的建造物を有効利用する茶会を開催するほか、小中学校の地域学習等を活用し、市民が気軽に茶道や伝統文化に触れることの出来る機会を増やしていく。

状況を示す写真や資料等

写真 夕顔の会(石川県九谷焼美術館)



写真 晩秋の会(石川県九谷焼美術館)



写真 大聖寺鴻玉荘(市指定有形文化財「旧新家住宅」)を活用したお茶会



評価軸③-13

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和6年度
項目	現在の状況	
和菓子文化普及啓発	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和3年(2021)度～令和12年(2030)度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 大聖寺藩では茶の湯が盛んなことから和菓子文化も栄え、老舗和菓子店が多数あったものの、近年は廃業により減少してきている。そのため事業により和菓子の普及啓発を行うことにより、和菓子文化を次世代へ継承する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

石川県九谷焼美術館の茶房にて、展覧会にちなんだ九谷焼を使い、和菓子とお茶のセットを提供し、和菓子文化の発信につなげた。
市内公共施設で通年的に和菓子作りの道具の展示を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

大聖寺の和菓子店や菓子職人が少なくなり、和菓子の資料も十分でないため、技術等の継承方法を検討していく。

状況を示す写真や資料等

写真 石川県九谷焼美術館茶房で展覧会にちなんだ九谷焼を使って、和菓子を提供



写真 大聖寺鴻玉荘茶会では地元大聖寺の和菓子を使用



写真 かが交流プラザさくらでの菓子道具の展示



評価軸③-14
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和6年度
項目	現在の状況	
伝統工芸普及啓発	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和3年(2021)度～令和12年(2030)度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容
 大聖寺藩が事業開発した九谷焼は、現在も伝統工芸として継承されており、また大聖寺藩ゆかりの美術品が多く残っている。事業により伝統工芸を普及啓発・活用することにより、伝統文化・歴史に触れる機会を増やす。伝統工芸「九谷焼」を石川県九谷焼美術館や市内の九谷焼関連施設等と連携し、普及啓発、継承を図るとともに、観光資源として活用する。「大聖寺文化協会」が主催するイベント等と連携し、大聖寺藩ゆかりの美術工芸品等の積極的な公開を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

①市内施設において、九谷焼の普及啓発事業を実施した。
 ・九谷焼窯跡展示館で体験事業を実施。絵付け(延べ161人参加)、ろくろ(延べ98人参加)、親子絵付け体験(令和6年11月3日開催、親子4人参加)
 ・さろんど九谷主催「愛でる・育てる九谷焼」(令和7年1月7日、11・12日、延べ6人参加)好きな九谷焼の鉢を選んで松や苔の植え付け。
 ・さろんど九谷主催「推し九谷」(8月3日～12月15日、113人参加)お気に入りの作品にオリジナルの名前をつけて応募した。
 ・石川県九谷焼美術館での九谷焼イラストコンクールの開催した。
 ・石川県九谷焼美術館の茶会や茶房で九谷焼を使い、気軽に九谷焼に触れる機会を提供した
 全国に向けての事業を実施した。
 ②全国に向けて九谷焼の魅力を発信した。
 ・九谷赤絵東京展(5月24日(金)～6月3日(月)11日館、於:東京丸善丸の内本店、延べ3,333名参加)

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
 ■計画どおり進捗している
 □計画どおり進捗していない
 伝統工芸である九谷焼や山中漆器の技術を受け継ぐ職人が減少している。(九谷焼H27年40人⇒R5年38人(うち稼働30人)、山中漆器S63年678人⇒R5年249人)ブランド力を高め、販路の拡大を図ることで、後継者の育成、技術の継承につなげていく。

状況を示す写真や資料等

写真 九谷焼の鉢を使用した盆栽づくり



資料 九谷焼絵皿イラストコンクール作品募集ちらし



写真 はじめてのおちゃかい(石川県九谷焼美術館) 九谷焼の茶器を使用



写真、資料 九谷赤絵東京展



評価軸③-15

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和6年度 現在の状況
歴史的風致活動の推進		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 令和3年(2021)度～令和12年(2030)度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 民間団体による活動を推進し、行政との連携や団体間の連携を図るとともに、必要に応じて活動を支援することにより、地域の主体的な活動が継続される。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

NPO法人や地域の文化財保存団体が主催するセミナー開催事業や文化財見学会に対して、人的支援を行った。
 ・江沼地方史研究会(2件):①江沼地方史研究会創立70周年記念講演会「加賀立国前の江沼」(11月23日(土)於:かが交流プラザさくら、40名参加)②江沼地方史研究会創立70周年記念事業「牧野隆信展」(1月4日(土)～2月3日(日)於:かが交流プラザさくら、80名参加)
 ・NPO法人歴町センター大聖寺(1件):第11回赤瓦の里セミナー(9月21日(土)於:歴町センタービル、30名参加)

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

金銭的な活動支援にとどまらず、人材育成などの支援もあわせて行う。また、地域の歴史や自然を学ぶにとどまらず、ガイドなど主体的に城下町大聖寺の魅力発信を行えるような取り組みにも幅広く活動支援を行う。

状況を示す写真や資料等

資料 江沼地方史研究会創立70周年記念講演会
加賀立国前の江沼(11月23日)

資料 江沼地方史研究会創立70周年記念事業
牧野隆信展(1月4日～2月3日)

資料 第11回赤瓦の里セミナー(9月21日)

評価軸③-16

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和6年度
	現在の状況	
歴史的人物の活用	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和3年(2021)度～令和12年(2030)度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 大聖寺ゆかりの活躍した人物の功績等をまとめて紹介することにより、次世代の子どもたちが先人の偉業を学び、歴史に対する理解を深める。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

大聖寺鴻玉荘(市指定文化財「旧新家住宅」)で、蓮如に関する展示(令和6年3月6日～4月29日:106名来館)を行ったほか、「大聖寺藩最後の藩主 前田利鸞の才能」(8月24日～:1月末321名来館)として、利鸞の書やゆかりの茶道具を展示した。かが交流プラザさくらでは、大聖寺藩士で医師の渡辺卯三郎や、大聖寺文化協会により野球界に貢献した河野安通志を紹介する展示を行っている。

進捗状況 ※計画年次との対応

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

大聖寺ゆかりの人物にまつわる資料の展示だけでなく、他の資料館との連携や、資料にまつわるイベントの実施な観光客にも足を運んでもらえるような企画を検討する。展示・企画を担う学芸のスキルを高めるとともに、ホームページやSNSを利用し全国に情報を発信する取組も検討していく。

状況を示す写真や資料等

写真 大聖寺鴻玉荘企画展
「福井・石川の家庭に残る蓮如さんのお宝大集合」



大聖寺鴻玉荘企画展
「大聖寺藩最後の藩主 前田利鸞の才能」



写真 かが交流プラザさくらでの常設展示
日本プロ野球球団創始者 河野安通志



写真 かが交流プラザさくらでの常設展示
渡辺卯三郎



評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和6年度
		現在の状況
文化財の保存・活用の現況と今後の方針		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容

国・県の指定等文化財については、文化財保護法、石川県文化財保護条例、加賀市文化財保護条例のほか、関連法令に基づいて保存管理を実施し、必要に応じ所有者等に対して保存管理に向けた助言等を行ってきており、引き続き適切な保存管理を実施するとともに、所有者等との連携のもと、計画的に保護のための措置を講ずる。また、未指定の文化財も数多く存在することから、大学等の研究機関や民間団体とも連携し、文化財の調査・研究を継続して実施し、価値が認められたものについては市指定や国の登録制度の活用を検討することで適切な保護を行う。有形文化財(建造物)・史跡の保護に当たっては、以下のとおり行うものとする。国指定の文化財については、保存活用計画を策定し、計画に基づき適切に維持管理するとともに、保存・活用を推進する。国の登録有形文化財については、適切な保存管理や活用が図られるよう、物件ごとに所有者及び管理者と協議し、保存活用計画の策定を推進する。また、県市の指定文化財及び未指定文化財については、所有者及び管理者に対し、適切な維持管理、保存・活用が図られるよう協議を行うとともに、指導・助言又は支援を行う。無形の伝統芸能や伝統工芸の保護に当たっては、その活動の記録を作成するとともに、今後も活動を継承していくことが可能となるよう、担い手育成に対する支援を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ・市指定文化財の管理者に対して管理にかかる経費(20件)を助成し、合わせて管理状況を確認した。
- ・無形文化財(工芸技術)の保持団体に対して、技術伝承者の養成に要する経費(国庫補助1件)を助成した。
- ・無形文化財(芸能)の保持団体に対して、芸能の保護及び伝承に要する経費(市費1件)を助成した。
- ・文化財保存活用地域計画の策定に向け、準備を進めた。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	保存修理が必要になった段階での対応が多く、老朽化の未然防止のため保存管理について所有者や管理者への周知を行う。 加賀市歴史文化基本構想の見直しや文化財保存地域活用計画の策定については、財源や人材を確保のうえ計画的に行っていく。

状況を示す写真や資料等

写真 指定文化財の環境管理事業(全20件)



写真 県指定文化財「山中木地挽物技術」伝承事業



写真 市指定無形文化財「お松囃子」保存継承事業



評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和6年度
		現在の状況
文化財の修理(整備)に関する方針		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容
 有形文化財の建造物は、経年劣化や風雨等の外的要因によるき損や、滅失を招く恐れがあり、日ごろの維持管理を主とした予防対策と被害を受けたあとの適切な修理が必要である。指定等文化財の修理や整備については、所有者等による維持管理や日常的な点検により損傷の早期発見に努めるとともに、所有者等の意識向上のため適切な助言を実施する。また、これら指定等文化財の修理や整備にあたり、文化財の価値を損ねることなく行う必要があることから、過去の修理履歴や調査記録を整理及び調査したうえで、現状や修理箇所の詳細な調査を実施し、修理の方法及び内容を検討するとともに、関係機関と調整し、各分野の専門家の指導により修理の方法及び内容の精度、客観性を高めて保護のための措置を講ずる。なお、調査情報は蓄積し、今後の維持管理や保存のための助言に活用する。さらに、所有者等の財政的負担の軽減のため、指定等文化財の修理には各種補助制度を積極的に活用する。未指定の文化財や、歴史的風致形成建造物として指定した建造物の修理については、所有者等と協議しながら、保存のための対策を講ずる。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

市指定天然記念物「小塩辻白山神社巨木群」の枯れ木剪定業務を令和6年10月に実施した。指定文化財の保護事業(補助事業2件)、重要伝統的建造物群の保存修理事業(補助事業4件)、市所有の未指定有形文化財の保存修理(1件)を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	老朽箇所の修繕や発掘調査、名勝調査を実施しながら、文化財の保存を図る。

状況を示す写真や資料等

写真 市指定有形文化財「大聖寺藩主前田家一族廟所」保護事業(灯笼修理)



倒壊した灯笼および写真撮影位置



写真1



写真2



写真3



写真4

瀟湘八景図の修理



市指定有形文化財「実性院御霊屋」襖絵
令和6年度はNo3・4を修理



評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和6年度
文化財の保存・活用を行うための施設に関する方針		現在の状況
		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容
 加賀市の文化財の保存・活用を行うための展示観覧施設は、石川県九谷焼美術館、北前船の里資料館、深田久弥山の文化館、九谷焼窯跡展示館、山中温泉芭蕉の館、大聖寺鴻玉荘があり、地域文化や文化財・先人・偉人の功績について展示している。いずれの施設も経年による機能の低下や、施設が狭小である等の課題がある。また、展示観覧施設の他に、郷土資料・民俗資料・考古資料の収蔵施設が市内に散在し、一部の観光施設や学校、体育館等でも資料を分散して収蔵している。施設の集約化や展示観覧施設の見直しを行い、将来的に資料の一元管理と保存管理ができる施設の整備を目指す。さらに、より多くの人々に興味・関心をもってもらうため、文化財の情報を広く発信し、屋外にある文化財の説明板や誘導サイン、位置サイン等の見学を補助する設備の新設・再整備を推進する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

市指定史跡「富塚丸山古墳」に設置されている老朽化した説明看板を改修した。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

説明看板は、全体で47か所を予定しており、優先順位を決め計画的に設置していく。(うち令和3年度2件、令和4年度1件、令和5年度1件実施、令和6年度1件実施)
 資料の収蔵施設は、引き続き一元管理できる施設の設置を検討していく。

状況を示す写真や資料等

市指定史跡「富塚丸山古墳」の説明看板修理概要

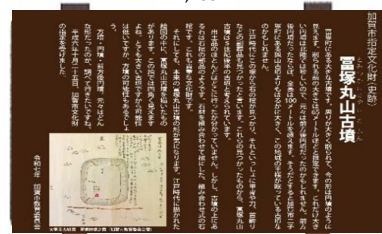
2mmアルミニウム板+耐候性印刷加工
 1,200



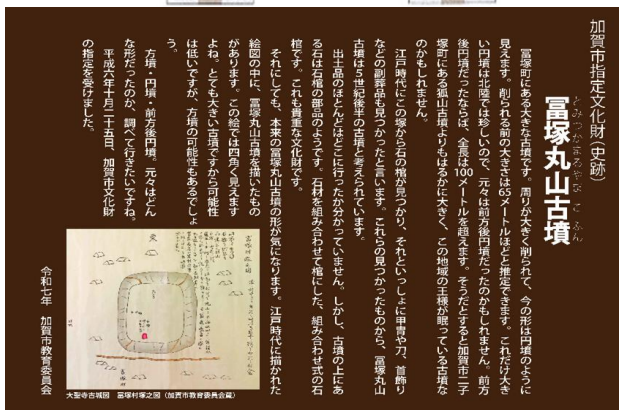
富塚丸山古墳位置図



富塚丸山古墳説明看板現況



丸鋼管こげ茶塗装
 φ76.3



富塚丸山古墳説明看板修理後

評価軸④-4

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和6年度
		現在の状況
文化財の周辺環境の保存に関する方針		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

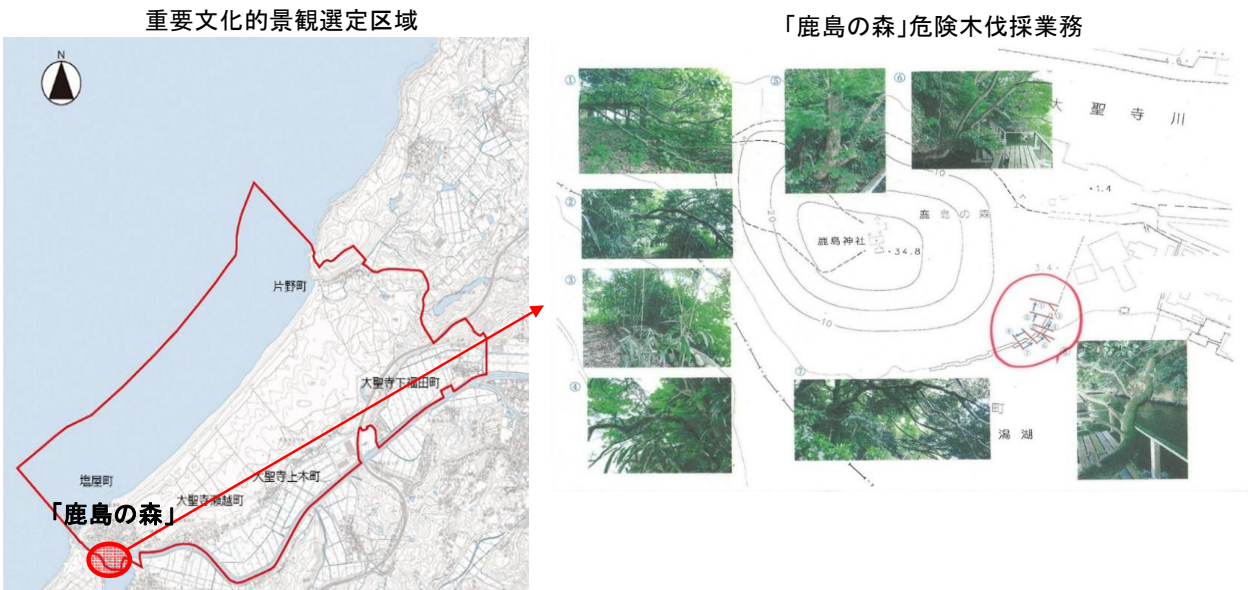
計画に記載している内容
 文化財は、周辺環境を含め価値を持つものであり、文化財の保存だけではなく、周辺環境の保全も視野にいれる必要があることから、都市計画法や景観法、加賀市の関係条例等による制度・規制を積極的に活用することにより、引き続き良好な保全に努める。また、公式サイン等の設置の際は、文化財やその周辺環境と調和したものとし、周辺環境の保全を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ・重要文化的景観選定区域の国指定天然記念物「鹿島の森」の周辺環境に係る整備計画について、担当課と協議を行った(1件)
- ・重要伝統的建造物群保存地区内での建築工事等の協議を事業者と行った(保存修理 5件)

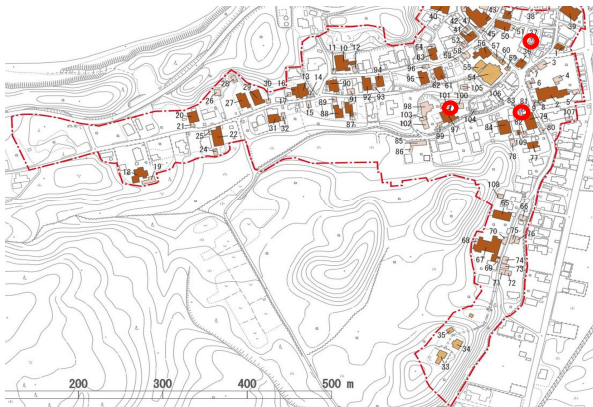
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	景観条例や、伝統的建造物群保存条例などによる規制の活用とともに、環境、建築、農林担当課との連携を密にし、良好な景観を維持し積極的に形成する取り組みを行っていく。

状況を示す写真や資料等



重要伝統的建造物群保存地区 加賀橋立
 令和6年度 修理件数(3件)

重要伝統的建造物群保存地区 加賀東谷
 令和6年度 修理件数(荒谷町:1件、大土町:1件)



評価軸④-5

文化財の保存又は活用に関する事項

	評価対象年度	令和6年度
--	--------	-------

項目	現在の状況
文化財の防災に関する方針	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容
 地震、落雷、水害、火災等により自然災害を原因とする有形文化財の損壊や滅失の危険性を低下させるため、所有者や管理者による防災対策の注意喚起を促すとともに、被災した場合には迅速な対応が可能となるよう、文化財の啓発活動や文化財防火デーを活用し、地域住民が参加した防火訓練や消火体制等の日常的な備えの取り組みを促す。また、個別の有形文化財や重要伝統的建造物群保存地区ごとに文化庁の防火対策ガイドライン等を活用して、防火対策を検討するとともに、現状の文化財の記録を行い、被災し、き損滅失した場合の復旧に資する資料の整備に努める。さらに、各専門家や研究機関、修理業者と連携し、被災履歴の記録や被災文化財の復旧作業を行えるよう体制を準備する。なお、文化財については盗難や放火等の防犯についても注意が必要なことから、所有者等へ防犯設備の設置についても促していくものとする。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ・文化財防火デーに合わせ、令和7年1月26日に国指定重要文化財「江沼神社長流亭」において地域関係者等と防火対象物管理者の参加協力のもとに、消火、通報、避難等の訓練を実施した。
- ・市指定有形文化財「旧新家住宅」(大聖寺鴻玉荘)において、令和6年12月12日に防火避難訓練を実施した。
- ・その他、展覧施設として利用している国登録有形文化財について、各指定管理者により消防訓練を実施している。
- ・市内指定文化財に関し、防火管理対象物(6件)に関しては毎年、対象外のもの(6件)については隔年、立ち入り検査を実施している。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	災害に伴う現状復旧の際に、迅速に復旧を行えるよう必要な図面や資料を整理しておく。また、被災時の報告が徹底されるよう、指定文化財の所有者に対して防災に関する意識付けを行い、文化財の早急な復旧や適正な管理につなげる。
--------------------------	--

状況を示す写真や資料等

写真 重要文化財「江沼神社長流亭」での訓練



写真 市指定有形文化財「旧新家住宅」(大聖寺鴻玉荘)での訓練



評価軸④-6

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和6年度
		現在の状況
文化財の保存及び活用の普及・啓発に関する方針		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容
 文化財の保存及び活用の普及・啓発については、紙媒体のチラシ・パンフレット作成・配布等、ネット上・対面での文化財の情報提供・展示公開を行っている。歴史的価値を理解し、地域住民が自ら調べる姿勢と本物志向を促す必要があることから、文化財の歴史的価値と保存の重要性について市民や事業者に広く知ってもらうため、説明板等の設置やパンフレットなどの作成・配布とともに、学校や公民館での講座やイベントを開催し普及・啓発を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・市の出前講座(かもまる講座)や学校からの要望で地域や小学校に出向き、地域の文化財や歴史に対する理解を深めた。
 ①かもまる講座(3件、内容:発掘から分かる歴史、参加者延べ48名)
 ②小中学校授業(4件、三谷小学校、錦城東小学校、分校小学校、錦城中学校)
 ③地域講演(1件、分校町、参加者35名)
 ・市民フォーラム「九谷磁器窯跡を考える」を開催(12/22)、聴講者120名。
 県内考古学者2名、県外考古学者1名、市内陶磁器専門家1名を招き九谷磁器窯跡に関するフォーラムを開催した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	パンフレットと共に、広報かがやホームページ、SNSなど様々な媒体を利用し情報を発信する。また、あらゆる年代に文化財に関心をもってもらえるような講座や講演会など、イベントの内容や開催方法を工夫する。

状況を示す写真や資料等

講座・授業の様子



三谷小学校出前講座(6/17)



錦城東小学校出前講座(7/4)



市民フォーラム九谷磁器窯跡を考える(12/22)



かもまる講座(8/6)

評価軸④-7

文化財の保存又は活用に関する事項

	評価対象年度	令和6年度
項目	現在の状況	

埋蔵文化財の取扱いに関する方針

- 実施済
- 実施中
- 未着手

計画に記載している内容

加賀市における「周知の埋蔵文化財包蔵地」は725か所と膨大である。それぞれの遺跡を個別に管理して、文化財保護法に基づく保護(保存・活用)を実践している。周知の埋蔵文化財包蔵地において土木工事等を行う際の届出や、これまで知られていない遺跡が発見された場合の届出等については、必要な手続きを周知徹底するとともに、石川県教育委員会の指導助言を仰ぎながら、開発に係る関係者と十分な協議を行い、その保護を図る。さらに、研究や文献、過去の調査の成果、現地の状態等により重要度を判断し、重要と考えられる包蔵地においては地下遺構の保存を優先するとともに、破壊が回避できない場合には発掘調査を行い、十分な記録を作成する。また、発掘調査の結果、重要な発見があった場合は、関係者と保存について協議する。出土遺物等についても適切な保存管理ができる場所の確保に務める。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ・開発行為に先立つ埋蔵文化財分布調査を、令和6年度は9件実施した。
- ・市内遺跡から出土した鉄製品について、令和6年度は49点保存処理を行った。
- ・土木工事に伴う埋蔵文化財についての協議を、関係課や事業者と行った(約200件)

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

分布調査の結果は今後の事業に活かせるよう、調査成果を地図や記録として管理する。
出土鉄製品の保存処理は、数が多いため、補助事業を活用しながら、予算の範囲内で優先順位を決め、計画的に行っていく必要がある。

状況を示す写真や資料等



写真 市内遺跡分布調査



写真 保存処理を実施した鉄製品(49点)

評価軸④-8

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和6年度
項目		現在の状況	
文化財の保存又は活用に関する事項の保存・活用に向けた市の体制と今後の方針		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
計画に記載している内容	加賀市では、文化財保護法および伝建地区における修理事業については、産業振興部の「文化振興課」が所管しており、学芸員4名(考古、日本史近世)、事務職員5名を配置している。一方で、歴史まちづくり施策の検討については、建設部の「都市計画課」が所管しており、相互に連携しながら文化財の保存・活用と歴史まちづくりを推進している。文化財の保存及び活用に関する事項について調査審議を行う機関として、加賀市文化財保護審議会条例に基づき「加賀市文化財保護審議会」を設置しており、7名の委員(専門分野として考古、歴史(古代・中世)、歴史(近世)、民俗、建造物、美術工芸、自然がそれぞれ1名)で構成されている。また、加賀市伝統的建造物群保存地区保存条例に基づき「加賀市伝統的建造物群保存地区保存審議会」を設置しており、適切な文化財の保存・活用を進めている。このほか、加賀市景観条例に基づき「加賀市景観審議会」を設置している。今後は、文化財の保存・活用の視点に立ち、関係部局との連携強化体制の充実を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
・加賀市伝統的建造物群保存地区審議会を開催した。(第25回:令和6年7月3日/第26回:令和6年11月20日) ・加賀市文化財保護審議会を開催した。(令和7年2月25日) ・江沼神社庭園整備検討会を実施した。(令和7年3月6日)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	景観資源や観光資源としての保存活用をはかるために、関連部局(景観:建設部、観光:産業振興部)と、十分な情報共有を行う。有形・無形・天然記念物など文化財の特色を活かした事業を観光プランに位置づけ、加賀市固有の資源として効果的な活用をはかる。		
状況を示す写真や資料等			

加賀市伝統的建造物群保存地区審議会



写真 加賀市文化財保護審議会
(令和7年2月25日)

加賀市伝統的建造物群保存地区審議会
(令和6年11月20日)

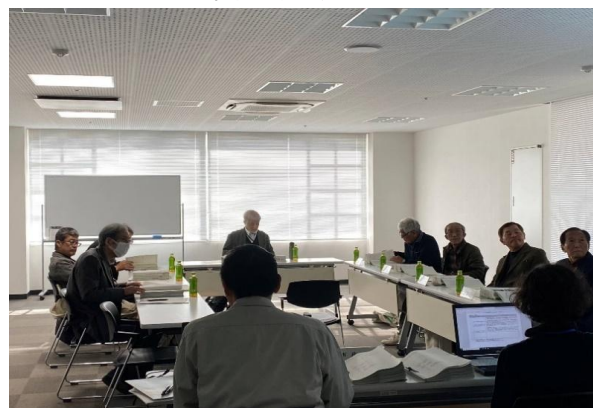


写真 江沼神社庭園整備活用検討委員会



評価軸④-9

文化財の保存又は活用に関する事項

	評価対象年度	令和6年度
項目		現在の状況

各種団体の状況及び今後の体制整備の方針

- 実施済
- 実施中
- 未着手

計画に記載している内容
 加賀市の文化財を保存・活用していくためには、加賀市の行政機関だけで取り組むのは困難であるため、地域において文化財の保存・活用に取り組んでいる団体と連携をとることが重要である。加賀市においては、「御願神事保存会」をはじめとした文化財の保存団体や民俗芸能等の保存団体が多く存在する。これまで、市内各地の様々な文化財について、市において調査研究を進めてきたが、これらの文化財の保存と活用は、必ずしも組織的に行われてきたとは言えないことから、地域の様々な文化財の周辺環境を含めた総合的な保存・活用を視野に入れた調査研究を行うとともに、保存・活用するための団体等の育成を進める。また、市内各地で保存団体が精力的な活動を行っているが、多くの団体が継承者、指導者の不足など、運営面で様々な課題を抱えていることから、今後は、こうして各団体が抱える課題を共有化するとともに、継承される技術や道具等について情報交換を行うため、保存団体間の連携強化を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ・公立小松大学の依頼を受け、加賀海岸地域の文化的景観についての概要説明や現地説明を行った。(5月16日)
- ・大聖寺住民による組織「大聖寺わがまちビジョン推進委員会」に都市計画課職員、文化課職員が出向き、事業の進捗状況の報告と、今後の事業方針について意見交換を行った。(令和5年5月27日、9月30日)
- ・実性院は、今後の修繕や建物の維持について、責任役員との懇談を行った。
- ・北前船日本遺産推進協議会で、総会、幹事市会、ブロック会議、記念大会を開催した。(11月21日)
- ・山中木地挽物保存会の役員会・臨時総会に出席し、技能伝承に関する問題等について共有を図った。
- ・官民連携した史跡管理体制を整えるため、大聖寺城跡の維持管理を担う錦城山城址保存会の草刈活動に参加した。
- ・NPO法人歴町センター大聖寺が行うフォーラムに、企画立案の補助として参加した。
- ・分校地区史跡保存会のイベント・役員会に出席。悩み・問題点を共有し改善方法について検討した。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

文化財保持団体については、いずれも高齢化や会員数の減少の問題を抱えており、活動補助のみでは、団体の維持継続が困難になっている。会員数の確保につながる支援を検討していく必要がある。修繕等の財源確保は、ふるさと納税やクラウドファンディングなど新たな財源確保の仕組みを研究・提案していく。文化財の総合的な保存・活用をはかるために、文化財保存活用地域計画の策定も検討していく。

状況を示す写真や資料等

写真 北前船日本遺産推進協議会記念大会in加賀



写真 公立小松大学での講義で使用した資料

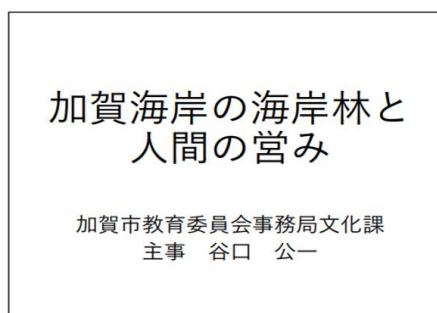


写真 大聖寺わがまちビジョンとの意見交換 (5月27日ほか全2回)



評価軸⑤-1 効果・影響等に関する報道		評価対象年度	令和6年度
報道等タイトル	掲載年月日	掲載紙等	
最優秀賞に西出さん 御願神事写真コンテスト	令和6年4月3日	北國新聞	
歴史都市大聖寺の魅力 新規受講生も参加 セミナー始まる	令和7年4月23日	北陸中日新聞	
登山愛好家ら久弥祭	令和7年4月29日	北陸中日新聞	
深田久弥しのぶ 山中温泉で登山愛好者ら	令和6年4月29日	北國新聞	
風傳流伝承へ支部設立 大聖寺藩ゆかりの槍術	令和6年4月30日	北國新聞	
大聖寺藩伝来 魅力的な能面	令和7年5月26日	北陸中日新聞	
風傳流を加賀に再び 大聖寺藩ゆかりの槍術 育成プロジェクト始動	令和6年6月11日	北國新聞	
大聖寺城主「玄蕃哀歌」歌って伝え 首塚に歌詞、楽譜掲示 加賀・歴町センター	令和6年6月17日	北國新聞	
伸びゆく九谷焼 大阪に	令和7年6月26日	北陸中日新聞	
天神講で御陣乗太鼓 25日、大聖寺・菅生石部神社	令和6年7月6日	北國新聞	
珠洲の宮司が助っ人に加賀・菅生石部神社で天神講	令和6年7月25日	北國新聞	
加賀唯一の稚児舞継承 錦城東小男児「天神講」で毎日奉納 大聖寺・菅生石部神社	令和6年7月26日	北國新聞	
加賀に能楽「稽古場」 宝生流能楽師・佐野さん開設 「語が降ってくるまち」復活へ	令和6年7月27日	北國新聞	
山口玄蕃や溝口秀勝ら大聖寺城の武将 加賀の保存会、錦城山で慰霊	令和6年8月4日	北國新聞	
大聖寺藩の十村制学ぶ	令和6年8月10日	北國新聞	
最優秀賞に西出さん 加賀 天神講写真コンテスト	令和6年9月11日	北國新聞	
歴史的町並みや災害の歴史理解 加賀・赤瓦の里セミナー	令和6年9月22日	北國新聞	
天満さんマルシェにぎわう 加賀・江沼神社、風傳流槍術など奉納	令和6年9月24日	北國新聞	
保存活用計画を承認 加賀・江沼神社庭園 市教委定例会	令和6年9月27日	北國新聞	
大聖寺ゆかり儒家の遺稿並ぶ わが家の家宝展	令和6年10月20日	北國新聞	
風傳流槍術親しむ 大聖寺で演舞	令和6年10月27日	北國新聞	
【加賀の「関ヶ原」の舞台・大聖寺城】織豊時代の城造り伝え 本丸に鏡石、石垣	令和6年11月7日	北國新聞	
加賀の伝統坂網獵つなぐ 狩獵解禁、マガモ1羽捕獲	令和6年11月16日	北國新聞	
立国前の江沼解説 江沼地方史研究会70周年 加賀で講演会	令和6年11月24日	北國新聞	
流出の逸品、加賀に「星帯り」 九谷再興の吉田麗奈 閉扉年月示す箱書きも 九谷焼美術館で21日から展示	令和6年12月21日	北國新聞	
石管使った壁紙知って 歴町センターと山口玄蕃首塚奉賛会 大聖寺に看板設置	令和6年12月26日	北國新聞	
伝統の「お松囃子」格調高く 大聖寺 錦城能楽会の50人披露	令和7年1月5日	北國新聞	
飛躍誓い初代師範墓参 大聖寺藩ゆかり風傳流槍術 支部会員拡大、大会出場目標に	令和7年1月12日	北國新聞	
大聖寺の歴史に理解 ふるさとを見て歩く会	令和7年1月12日	北國新聞	
お夏から学ぶ命の大切さ	令和7年1月15日	北陸中日新聞	
山口玄蕃の首塚碑(加賀市) 恩に報いた「げんぼさん」 かんざしのへび伝説	令和7年1月25日	北國新聞	
「大蛇」完成、神事待つ 加賀・菅生石部神社で氏子	令和7年2月3日	北國新聞	
豪快に青竹割り 加賀・菅生石部神社で御願神事	令和7年2月10日	北國新聞	
大聖寺の菅生石部神社 青竹たたき割り御願神事	令和7年2月11日	北國新聞	
地図看板、パンフレットで 偉人や史跡 加賀学ぼ	令和7年3月8日	北陸中日新聞	
大聖寺城跡国史跡へ弾み 埋蔵文化財リストに掲載 加賀市議会一般質問	令和7年3月12日	北國新聞	
「加賀愛」持って看板設置 歴町センター大聖寺 プリントも配布	令和7年3月17日	北國新聞	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
<p>コロナウイルス感染症による自粛ムードから解放され、城下町大聖寺の魅力伝える祭礼やイベントなど、再開された活動に関する報道が多く取り上げられている。ただ、イベント等の開催はコロナ前、能登半島地震の前の状況に戻っているものの、市内全域では北陸新幹線敦賀延伸後も期待されたほどの観光客増加は見られない。観光客入込数(R1:1,855千人、R4:1,049千人、R5:1,224千人、R6:1,357千人)また、認定都市をPRする歴まちカードは、加賀温泉駅構内にある「KAGA旅・まちネット」にて配布を行っている。(R5年度:151枚、R6年度:481枚)</p>			
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)			
進捗状況 ※計画年次との対応	<p>観光客数は伸び悩んでいるもののインバウンド需要をみこし、大聖寺固有の資源を活かした体験型イベントの企画やSNSの活用などにより、戦略的に事業を展開する。あわせて昨年度作成した歴まちカードを活用し、カード収集を目的とした愛好家などの周遊や観光の増加を目指す。また、このような新たな取り組みを実施することで、認定都市間の相乗効果を高め、国内外の旅行者に選ばれる都市となるような歴史まちづくりの推進を図る。</p>		
<input type="checkbox"/> 計画の進捗に影響あり			
<input checked="" type="checkbox"/> 計画の進捗に影響なし			

評価軸⑥-1
その他(効果等)

	評価対象年度	令和6年度
--	--------	-------

項目

歴史まちづくりの推進

計画に記載している内容
加賀市の歴史的風致の維持向上を図る上で欠かせない城下町大聖寺を継承するため、重点区域において、優先的に、歴史的風致維持向上施設の整備と適切な管理に関する各種事業を行い、その効果を市全域へ波及させていくこととする。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

計画に位置付けた16事業のうち、令和6年度は、江沼神社庭園整備事業に係る測量業務及び実施設計に着手した。また、江沼神社長流亭に関しては能登半島地震により大きな被害を受け、計画の進捗具合が心配されたが、国・県・市補助金を活用し年度内に復旧予定である。錦城山公園については、昨年より引き続き国指定史跡のための協議を県・文化庁と進めており、指定範囲区域外である入口部の修景整備については先行して工事に着手し、令和7年度に完成予定としている。これらとは別に大聖寺の能の文化を加賀市の観光資源として活用するため、能楽に関する様々な事業を実施し、能のまち加賀市を市内外にアピールした。

進捗状況 ※計画年次との対応

<input type="checkbox"/> 計画の進捗に影響あり <input checked="" type="checkbox"/> 計画の進捗に影響なし	<p style="text-align: center;">実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)</p> <p>能登半島地震により一部建造物等に被害が出たものの、復旧まで一定の目途がたったことで、計画期間内での事業実施は可能と思われる。観光客の伸び悩みはみられるため、イベント等の開催は、対象や効果を意識しながら事業を展開していく。歴史的建造物の維持保全、周辺環境・景観の整備、伝統行事等の伝統文化の継承、まち歩き観光の振興等、地域課題への対応は住民の声を反映しながら計画的に実施する。</p>
---	--

状況を示す写真や資料等

加賀市歴史的風致維持向上計画ロードマップ

	年度(西暦) (令和)	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1 錦城山公園修景整備			国指定史跡を目指す 計画策定(保存計画、整備計画)、史跡整備 視点調整									
2 江沼神社庭園整備			基礎調査	名勝調査	計画策定、所有者の意向確認	実施設計、改修整備			公開 保存・管理			
3 歴史的都市構造保存整備				計画策定	遊歩道整備		計画策定		旧北国街道			
4 空地活用整備				計画策定			交通広場 ポットパーク		公開			
5 松島橋の架け替え			架け替え	旧橋撤去								
6 町名の普及啓発及び由緒書等整備						町名の普及啓発				計画策定	由緒書	
7 町並み景観形成						町並み景観助成	※申請状況による					
8 歴史的風致形成建造物修理			建造物の指定			建造物修理助成	※申請状況による					
9 町屋再生						町屋改修助成	※申請状況による					
10 祭礼の継承						伝統的な祭礼道具や地域の大きな祭りへの助成						
11 伝統芸能の継承			協議会 設置	能のまち構想策定 能楽イベント等の開催								
12 茶の湯文化普及啓発			資料調査	資料調査			大聖寺鴻玉荘での企画展 茶会などのイベント開催					
13 和菓子文化普及啓発			資料調査	資料調査			大聖寺鴻玉荘での企画展 和菓子教室など開催					
14 伝統工芸普及啓発						九谷焼・山中漆器等の後継者育成等の助成						
15 歴史的風致活動の推進						お松餅子ほか文化活動補助						
16 歴史的人物の活用						大聖寺鴻玉荘での企画展開催	1回/年 程度開催					

評価対象年度	令和6年度
法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 第4回加賀市歴史的風致維持向上協議会	
会議等の開催日時: 令和7年2月28日(金)	
(コメントの概要)	
<p><⑦町並み景観形成、⑧歴史的風致形成建築物修理、⑨町屋再生について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に昨年地震の被害がなかったのか、こういうところで苦労しているなどの情報を積極的に広報したほうが良い。 ・大聖寺の歴史的風致重点地区として、町並みを残していく取り組みをもう少し力を入れていただきたい。 <p><⑫茶の湯文化普及啓発、⑬和菓子文化普及啓発、⑭伝統工芸普及啓発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化的な普及啓発を行う場所について、現状大聖寺町内に集中しているが、発信していくには、温泉駅など人の利用頻度が比較的に高いところで行う方が良いのではないかと。 ・加賀市全体で大聖寺との繋がりを大切にしつつ、それぞれの地域に広めることが重要です。さらに、加賀市全体を盛り上げる取り組みとして、更に発展させていきたい。 <p><文化財の保存又は活用に関する事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区において、山中、山代、大聖寺においての歴史的・文化的なものが、まだまだ埋もれてしまっているということを深堀して、何をどのようにして守っていくかというところを具体的に示していただきたい。また、残すものと壊すもので分けるなど具体的な取り組みとして進めていかないと、本来残すべきものがどんどん失っていく。 ・文化財を保存又は活用するうえで必要なのは、建物の場合、残しつつ次に活用するために、地区ごとに具体的な支援策や補助の内容を示していくことが必要。 	
(今後の対応方針)	
<p><⑦町並み景観形成、⑧歴史的風致形成建築物修理、⑨町屋再生について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元まちづくり協議会や広報誌にて情報発信していく。 ・大聖寺の町並みを残していくために、調査・検討を実施する予定。 <p><⑫茶の湯文化普及啓発、⑬和菓子文化普及啓発、⑭伝統工芸普及啓発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大聖寺に限らず発信していくとともに、その実績も記載していく。 <p><文化財の保存又は活用に関する事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町屋再生や、加賀市景観整備地区における建物の修理、景観を整えるような修繕をする際の補助制度について周知を徹底し、文化財の保存・活用に繋がるよう努める。 	